

③ ◎原発事故◎

- ・「10km圏内=被ばく線量の高い地域」にならなかった理由

…風が海沿いに南向きに吹いていたため

※実際、東日本大震災でも、南東から風が吹いており、避難指示が出ていなかったのに線量が高かった地域があった。
風向を考慮した放射能拡散予想はされていたものの、うまく伝達されず、避難指示に反映されなかった。



自分で積極的に情報を仕入れ、取捨選択することが重要!

⑧ <今後の活動予定>

- ・福島、災害全般についてさらに調査をすすめる、知識を深める
- ・シミュレーションゲームの改良、新しいゲームの考察
- ・全国中学高校 web コンテスト (webでの探究成果発信)

地震や豪雨など…災害は私たちのすぐ近くにひそんでいます。しかし、興味のない人が多いのも事実です。

「そのときやればいいや」ではなく、日頃から備えをしておくことは、他ならぬ、あなたやあなたの家族を守ることです!

① リーフレット

ふくしまから
考える未来

持ち出し厳禁!

② <ゲームのポイント解説>

◎津波◎

- ・大津波警報では…3m ^{差!}
実際は…10m以上

『従来の被害想定と東日本大震災の被害』(東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会第7回会合資料)によれば、福島県において、津波の高さは推定の最大9倍、浸水面積では最大17倍の差があったという。



ハザードマップや最新の情報を確認することは大切だが、自分の目や耳などをフル活用して状況を把握することが重要!

- ・津波警報が出たら、川、海には近づかない!

※今回のゲームでは、橋を渡らないと施設に行けなくなっていました。今後改良していきます…

＜想定される悪条件＞

④

- 家族にお年寄り、妊婦、赤ちゃんがいる
→ 避難の足が遅れる可能性
- ペットがいる
→ 避難に手まどる
避難所に入れな
可能性
- 雨や雪、暑い、寒いといった悪天候
→ 避難に手まどる
土砂くずれの危険が
高まる
足場が悪い

※東日本大震災のときは3月-
昼頃・曇り だった

＜現地(福島)で学んだこと＞

⑤

- メンバー は昨年秋に
福島県主催の「ふくしま学宿」
で、2泊3日かけて福島県の
実態を見学してきた。
今回はその中でも最も印象的
だったことを紹介したい
- フレコバッグの山
→ 道路脇には壁があり、
その奥には除染で出た
汚染土が1tずつ袋に
詰められて積まれていた。
(写真はポスター参照)
中には、春からの通学路
である道の横に、むきだし
のフレコバッグがある。
という場所も見受けら
れた。
 - 福島の人々
→ 本当に福島が好きで、
前向きな、明るい方が
多かった。

＜私たちにできる備え＞

⑥

- 非常用持ち出し袋を用意
しておく
- ハザードマップなどを利用
して、自分の地域の特性
やリスクを把握しておく
- 家族と非常時の対応に
ついて話し合っておく
- 防災や、災害、原発の仕
組みについての知識
を正しく身につける
→ 新たに仕入れた情
報と合わせて、より
適切な判断がで
きるようになる!

⑦

私たちは、現地に行った
ときに、調べ学習では
得られない何か大きな
ものを感じ、学びました。
もしも可能なら、福島
を訪れてみて下さい!
果物をはじめ、食べ物
も本当に新鮮でおいしい
ですよ!



ポスターや論文も
掲示しています。
ぜひ、あわせてご覧
ください